

す  
好きこそ……？



ぶん か ひと もりしたさち こ  
文を書いた人 森下幸子

スポーツが好きな人や、歌が好きな人、料理が好きな人など、いろいろな人がいます。

あなたは何が好きですか。何が上手ですか。

昔、絵が大好きなお坊さんがいました。雪舟という名前です。

雪舟は1,420年に日本で生まれました。

雪舟は水墨画の画家です。



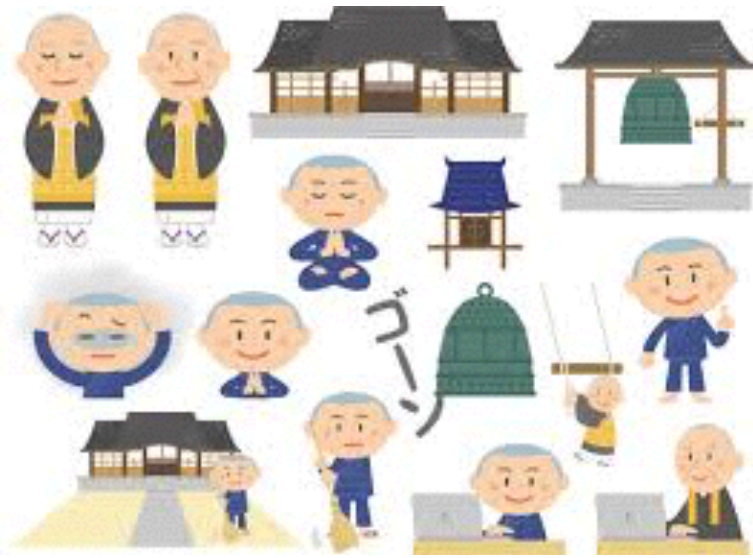
水墨画は黒いインクと筆で描いた絵です。暗いところや明るいところ、固いものや柔らかいものなどいろいろなものを黒いインクだけで描きます。

雪舟は、日本でとても有名な画家です。

これは、雪舟が子供の時のお話です。



せつしゅう ぼう たら はい  
雪舟は、お坊さんになるためにお寺に入りました。



ぼう あきはや お  
お坊さんは、朝早く起きなければなりません。お寺の中や庭などを全部掃除しなければなりません。お経をたくさん読んでたくさん書かなければなりません。毎日毎日、朝から晩までたくさんことをしなければなりません。



せつしゅう え だい す あさ ばん まえ か  
でも、雪舟は絵が大好きでしたから、朝から晩まで絵を描いていました。雪舟がお坊さんの仕事を何もしないで、一日中絵を描いていたので、和尚さんは怒りました。

「こら、また絵を描いているな。いまなに ほとけさま まえ かんが  
い。」

おしょう せつしゅう ほとけさま まえ  
和尚さんは、雪舟を仏様の前の柱に縛りました。雪舟は、広いお寺の中で一人になりました。とても静かでした。

せつしゅう おも  
雪舟は思いました。「寂しいよう。こわいよう。だれか助けてえ。」

でも、だれも来ませんでした。雪舟は、泣きました。涙がぽとり、ぽとりと床に落ちました。

だんだん暗くなりました。

おしょう しんぱい せつしゅう  
和尚さんが、心配になって雪舟を見に行くと、雪舟の足の指のところに大きなネズミがいます。「あっ、危いっ。」



和尚さんは、急いで雪舟の近くに行きました。

でも、ネズミは全然動きません。和尚さんは、ネズミをよく見ました。それは雪舟が足の指と涙で描いたネズミの絵でした。

「お前は、本当に絵が好きなのだな。」

この日から和尚さんは雪舟が絵を描いていても、もう怒らなくなりました。

その後、雪舟はずっと絵の勉強をして立派な画家になりました。

この話は、雪舟が有名になった後で、誰かがつくったお話です。でも、雪舟は子供の時から毎日毎日、たくさん絵を描いていました。それは本当です。それで、こんなお話ができたのでしょ

日本に「好きこそ物の上手なれ。」という諺

(proverb)があります。みんな好きなことは、よく頑張ります。どうしたら上手になるかよく考えます。それで、好きなことが早く上手になっていきます。雪舟も絵がとても好きでしたから、とても上手になりました。

でも、日本には反対の意味の諺もあります。



それは「下手の横好き。」という諺です。

これは、下手ですが、あることがとても好きで、いつもそれをしている人のことです。あまり上手にならないのは、残念です。でも、好きだから楽しいのです。

「好き」なことがあるのは、すてきですね。上手でも、下手でも。

